

実践報告

地域子育て支援活動「子どもミュージアム」における取り組み —平成28年度の実践報告—

西村侑香里・西村麻希・田中麻里

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成29年9月26日受理)

Efforts in Community Childcare Support Activity, “Children’s Museum”: 2016 Practice Report

Yukari NISHIMURA, Maki NISHIMURA, Mari TANAKA

(*Department of Children’s Studies, Faculty of Children’s, Nishikyushu University*)

(Accepted September 26, 2017)

Abstract

At our university, “children’s museum,” the community childcare support activity, was implemented in 2009 and currently entered its ninth year. In 2016, it was held 12 times per year and a total of 146 households (389 people) participated.

Satisfaction rates of participations in the activity showed that 46% were “*satisfied*” and 44% were “*very satisfied*.” It became clear that most parents who participated in the activity wanted to participate on subsequent occasions. This also suggests that such an activity is steadily taking root in the community as a place for parenting support.

With an overview of “children’s museum,” this paper reflects on its 2016 activity and describes the direction of its future activity as well as challenges associated with it.

Key Words : Community 地域

Childcare support activities 子育て支援活動

Childcare Professional and Educator Training 保育者・教育者養成

1. はじめに

西九州大学子ども学部子ども学科では、子ども学部新設の平成21年度から子育て支援事業として「子どもミュージアム」を継続して実施し、平成28年度で8年目を迎えた。

活動を開催するにあたって「子育て・子育てのための地域支援活動」、「地域に開かれた大学づくり」、「保育・教員者を志す学生の実践活動」の3つを目的とし実施している¹⁾。活動は、子ども学部子ども学科の授業の一環で実施し、担当教員の指導のもと、学生が中心となり、企画・立案・運営を行っている。本活動への参加を通して、学生が達成感や充実感を感じ、将来子ども達を保育・教育する立場に立つ専門職業人としての実践力や展開力を体得できるような“場”を目指している。山田(2015)の、「机上の学びだけではなく、学内において親子とかわり、実践的に保育を学ぶことは、今後の保育者としての意識向上につながると考える²⁾といった指摘からも、本活動は保育者・教育者を志す学生達にとっても、大変有意義な活動として繋がっていることがうかがえる。また、本事業の統一テーマを「子どもの文化と創造」とし、体遊び、楽器・歌遊び、おはなし、化学・自然との触れ合いや佐賀を知る体験活動など、活動内容も多岐にわたっている。開設から8年目を迎えた今、リピーターの増加や保護者同士の誘いによる参加が増えつつあり³⁾、本学による取り組みが地域に定着していきつつあることがうかがえる。

本稿では、参加者のニーズを把握し、より地域に寄り添った子育て支援活動を実施するために、平成28年度(2016年度)に本学で実施した活動内容及び実績、活動後のアンケート結果(保護者・小学生・参加学生)を踏まえ、今後の課題や方向性について考察する。

2. 活動の概要

1) 開催日時及びスケジュール

本活動は、就学前の子どもとその保護者、そして小学生を主な参加対象としていることから、「①平日開催(木曜日)／11:00~12:00」と「②土曜開催／10:00~12:00(10:30~11:45)」の2パターンを開催日として設定している。

また、平日開催時には、子どもミュージアムの活動プログラム終了後から14時までの間、施設開放の時間帯を設け、「子育て支援室」と「保育演習室」の2室を自由開放している。室内には、遊具、絵本、子ども用ベッド、幼児用トイレ、授乳室、おむつ交換台、飲食可能なスペースがあり、活動終了後には室内に設置している遊具で遊んだり、親子や友人と一緒に昼食をとったり、また保護者同士が交流や情報交換をしている場面が多々見受けられ、子どもの遊び場や保護者の憩い・交流の場として利用されている。本活動のスケジュールは、Table. 1の通りである。

2) 活動場所

西九州大学(佐賀キャンパス)の「表現スタジオ」「子育て支援室」「保育演習室」の3室を主な活動場所として、活動を開催したその他、活動内容に応じて「理化学実験室」や「美術工芸室」を使用して活動を行った。(Figure. 1~3)。



Figure. 1 表現スタジオ

Table. 1 活動スケジュール

木曜日開催	土曜日開催	活動スケジュール	学生の動き
10:15~	9:30~	受付開始	環境設定
11:00~12:00	10:30~11:45	ミュージアム開催	受付・駐車場誘導
12:00~14:00	—	施設開放(木曜日のみ)	活動プログラムの実施
			片づけ・掃除



Figure. 2 子育て支援室



Figure. 3 保育演習室



Figure. 4 出張講座「紙で家をつくらう」

また、学内のみの開催に留まらず、“出張講座”として、体験学習施設（佐野恒民記念館^{注1)}での開催を行ったり、大学近隣地区の青少年育成事業団体（放課後子ども教室）と連携・協同して活動を行った。定員を超える申込があり、地域の子育て支援団体と協同で企画を行ったこともあり、より多くの子どもたちが活動に参加し、このような様子からも地域により拓かれた取り組みとなりつつある事がうかがえる（Figure. 4）。



Figure. 5 「夏休み最後に OGI（を・で）学ぼう」



Figure. 6 「わくわくあそびランド（2）」

さらに、平成28年度は（平成28年1月にオープンした）本学のサテライト教室がある「小城市まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城」^{注2)}においても、8月と11月の年2回、活動を実施した。（Figure. 5～6）。

3) 活動運営について

平成28年度子ども学科3年生の開講科目である「子ども学演習」と子ども学科4年生の「子育て支援」の講義内で実施した。平成28年度は、3年生83名と4年生24名の計107名が参加した。活動の企画・立案を行い、準備から当日の運営まで学生が主となり活動を開催した。

4) 参加募集方法について

参加者の募集方法は、年間スケジュールを記載したチラシを作成し、本学近郊の公民館、附属の幼稚園・保育園、昨年度までの参加者に配布を行った。さらに、校内に設置しているラックにチラシを配置したり、学内のホームページに開催情報を掲載し募集を行った。

3. 活動実績（平成28年度）

1) 参加申込の状況

平成28年度は、通算83世帯の申込みがあり、うち53世帯が新規参加、その他は、既に以前参加したことのある方々からの申込みであった。前年度と比較すると、参加世帯数が30世帯増加し、うち半数は、リピーターによる参加（継続参加）であった。また、新規参加者に関しても前年度同様に10世帯増加していた。〔平成27年度実績：継続16世帯、新規参加43世帯〕（Table. 2）。

Table. 2 参加申込の状況

	平成27年度	平成28年度
参加世帯数	59	83
(内訳) 継続	16 (27.1%)	30 (36.1%)
新規	43 (72.9%)	53 (63.9%)

実数は世帯数を標記

2) プログラム内容と参加実績

平成28年度は、年間12回の開催（平日開催5回／土曜開催4回／うち4回は出張講座）を行い、延べ146世帯（389名：大人153名、子ども236名）の参加があった。

また、本学のサテライト教室がある「小城市まちなか市民交流プラザゆめぷらっと小城」での開催においては、延べ23世帯48名の参加があった。

各回のプログラム内容及び参加実績を、Table. 3、4に示す。

3) 参加者アンケートについて

参加動機や参加者の満足度、本活動への要望について把握するために、各回の活動終了後に参加者（保護者と小学生以上の子ども）を対象に「プログラムに参加しての所感」や「今後の活動への要望」等を記述するアンケートを実施している。各対象に実施

Table. 3 子どもミュージアムのプログラム内容と参加実績（平成28年度）

	開催日	曜日	内容	担当	参加世帯数	参加人数	大人	子ども	参加学生数
第1回	5月26日	木	わくわくあそびランド（1）	田中	19世帯	41名	19名	22名	7名
第2回	6月9日	木	楽器であそぼう	櫻井琴	24世帯	52名	24名	28名	9名
第3回	6月25日	土	“かず”や“かたち”であそぼう	川上	3世帯	9名	3名	6名	4名
第4回	6月30日	木	絵本小劇場	高尾	23世帯	49名	23名	26名	7名
第5回	7月28日	木	体をあそぼう	松本	22世帯	52名	22名	30名	7名
第6回	8月27日	土	夏休み最後にOGIを（で）遊ぼう	松井	5世帯	10名	3名	7名	8名
第7回	10月29日	土	植物の色で遊ぼう	飯盛	3世帯	8名	3名	5名	7名
第8回	11月17日	木	わくわくあそびランド（2）	田中	18世帯	38名	18名	20名	24名
第9回	12月3日	土	お話の世界で遊ぼう	香川	10世帯	26名	10名	16名	9名
第10回	12月22日	木	みんなで楽しくあそぼう	櫻井京	16世帯	38名	16名	22名	8名
学外企画	1月28日	土	佐賀を知ろう	山田	3世帯	6名	4名	2名	9名
出張講座	12月5日	土	新聞紙の家づくり	赤星	—	60名	8名	52名	8名
				合計	146世帯	389名	153名	236名	107名

Table. 4 各回別の参加実績

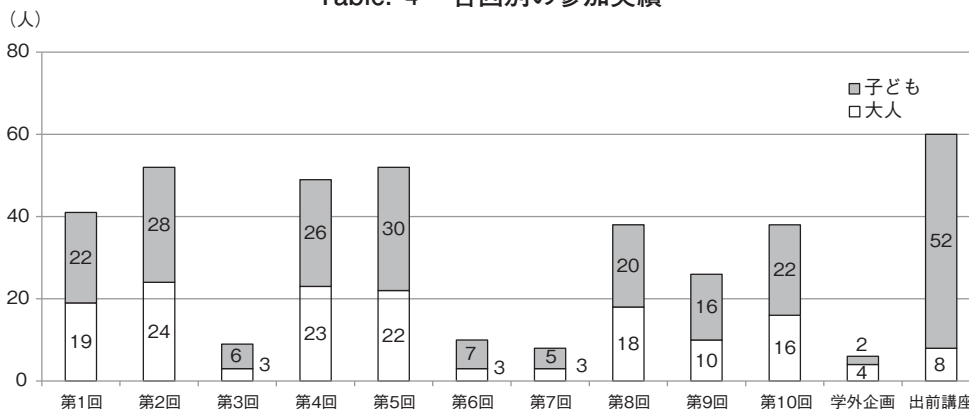


Table. 5 保護者対象アンケートの質問項目

項目1：保護者の基本情報 (性別, 年齢, 勤務状況)
項目2：参加歴
項目3：参加動機
項目4：活動内容への満足度および感想〔自由記述〕
項目5：環境・施設・設備への満足度
項目6：今後の活動への参加希望
項目7：活動への要望・期待〔自由記述〕

Table. 6 子ども対象アンケートの質問項目

項目1：お子さんの基本情報 (性別, 小学校名, 学年)
項目2：参加歴
項目3：参加動機
項目4：活動内容への満足度および感想・要望〔自由記述〕
項目5：今後の参加希望

しているアンケート項目は、下記の通りである (Table. 5, 6)。

(1) 保護者アンケートの結果

① 参加者の概要 (年齢・勤務形態)

「40歳以上 (27%)」「30歳～34歳 (27%)」が3分の2を占めており、最も多かった。保護者の中には、夫婦揃って参加する家族や義母、祖父母、保護者同士の誘い合わせによりプログ

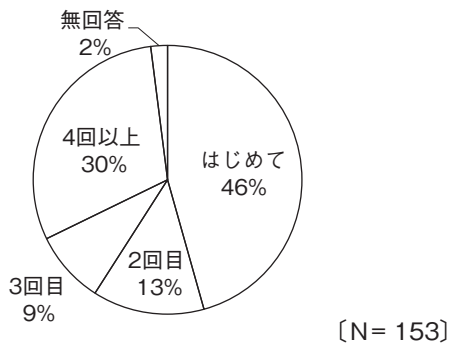


Figure. 7 参加歴

ラムに参加する家族もあった。

勤務形態については、「働いていない」が72%と過半数を占めており、次いで「常勤〔育休含〕 (18%)」, 「パート (6%)」となっていた。

② 参加歴

本活動への参加歴については、「はじめて」が46%と最も多く、次いで「4回以上 (30%)」, 「2回以上 (13%)」となっていた。このことから、「新規参加者」と「リピーター」といった二極化したメンバー構成になっていたことがうかがえ、より地域に根ざした活動へと広がっていることが示唆された。

③ 活動参加の動機

参加動機として、最も多くを占めていた項目に「子どもが喜びそう」が挙げられ、153名中84名〔54%〕の回答があった。次いで、「内容に興味があった」が71名〔46%〕, 「友人の誘い」39名〔25%〕であり、参加動機の順位は、昨年度と同様の結果であった (Figure. 8)。

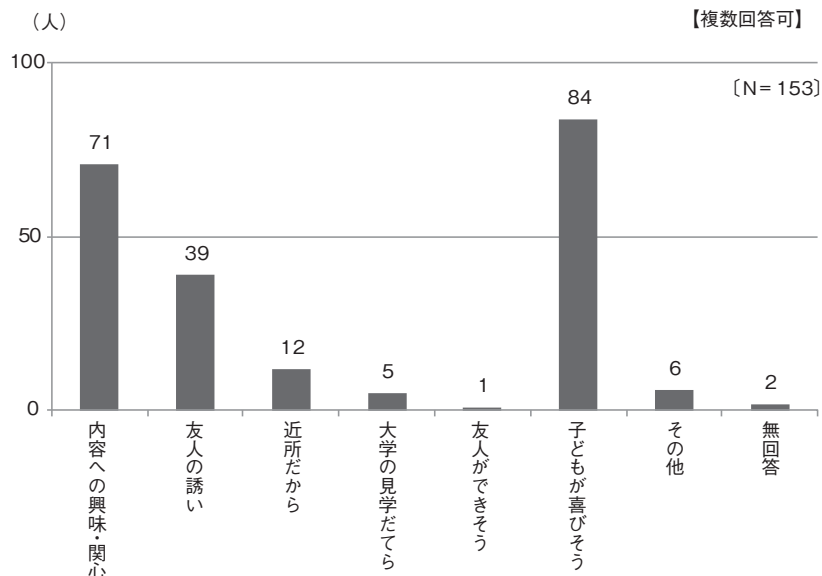


Figure. 8 参加動機

Table. 7 活動内容に対する感想〔自由記述〕

<p>【活動に参加しての感想】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の演奏に合わせて、リズムあそびが出来て、親子で楽しかったです。 ・子どもが好きな用具を沢山準備してあり、子どもも色々遊んで飽きずに楽しそうでした。 ・家では新聞紙遊びとかあまりさせることができないので良かった。 ・話の内容と遊びがリンクしていてとてもよかったです。 ・身近な物で家が出来る体験ができて良かった。学生さんの主導で安心できました。 ・お兄さんお姉さんの生き生きとした姿に元気をもらいました。 ・手作りの玩具や飾り、一人ひとりへのプレゼントがとても可愛くてよかったです。
--

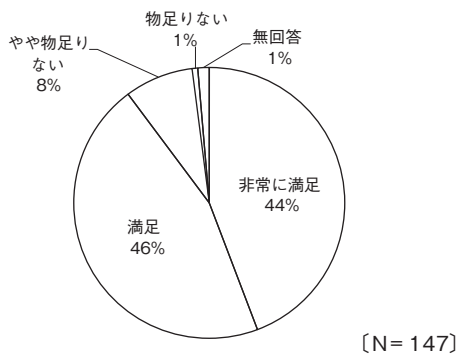


Figure. 9 活動内容への満足度

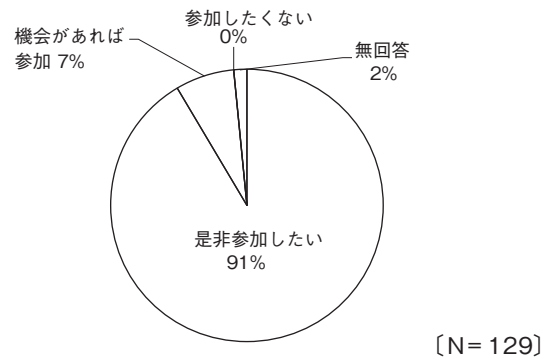


Figure. 10 今後の活動への参加希望

半数以上の保護者が「子どもが喜びそう」と回答しており、その背景には、“遊びを通した人と人の繋がり”や“様々な体験の積み重ね”，さらには、“他者交流を通した社会性や協調性”を体得できる機会にしたいという保護者としての思いが存在していることが推測できる。また、参加動機として3番目に多かった「友人の誘い」に関しては、活動終了後に、昼食をとりながら保護者同士が交流する様子が多々見受けられ、このような場面からも、本活動が“保護者-子ども”といった親子交流の場のみならず、保護者同士の交流や憩いの場として機能しつつあることがうかがえた。

④ 活動内容の満足度

活動に参加しての満足度について、4段階評定〔非常に満足した～物足りない〕で回答を求めた。その結果、「満足」が46%、次いで「非常に満足した」が44%という結果が得られ、活動に参加した保護者の9割以上が満足感を抱いていることが明らかになった。

一方で、「やや物足りない」「物足りない」との回答もあり、寄せられた記述の中には、「絵本が少し難しかった」や「もっとプログラムの活動してくれたらよかった」、「製作の説明を

もう少し詳しくしてほしいかった」などの意見が挙げられていた。

今後は、プログラム内容の熟考、対象年齢に応じた対応や環境設定を行うなど、参加者からの意見を真摯に受け止め、且つ改善していかなければならないと考える (Figure. 9)。

以下、活動に参加しての保護者の声〔自由記述〕を一部抜粋して表記する (Table. 7)。

⑤ 今後の活動への参加希望

今後の活動への参加希望について、3段階評定〔是非参加したい～参加したくない〕で回答を求めた。最も多かったのは、「是非参加したい」で91%であり、次いで「機会があれば参加したい (7%)」となっていた。本結果より、活動に参加したほとんどの保護者が、次回以降の参加を望んでいることが明らかとなった (Figure. 10)。これらのアンケート結果から、「子どもミュージアム」への参加が“子ども-保護者”にとって有意義な活動時間となり、満足感の高さからも、継続参加への希望者が多いことから、子育て支援のニーズに本活動が応えられていることが示唆される。

⑥ 企画して欲しい講座・要望

今後、企画して欲しい講座・要望〔自由記述〕としては、リトミックやミュージカル鑑賞、楽

Table. 8 企画してほしい講座・要望〔自由記述〕

<p>【企画してほしい講座】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトミック ・ミュージカル鑑賞・人形劇 ・楽器・表現・リズム遊び ・ボディペインティング ・簡単なクッキング <p>【要望】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間に開催 ・子どもだけで何かをする時間 ・自宅ではできないような、子どもの創造性を刺激するような企画 ・回数を増やしてほしい

器遊びといった音楽とふれあえる講座や水遊びや夏祭りといった季節感を感じることでできる講座の開催要望があった。また、これまでに開催していないボディペインティング、クッキング、英語との意見もあった。

さらに、少数ではあるが「自宅ではできないような、子どもの創造性を刺激する遊び」との意見があり、“子どもにとって家庭ではできないような体験活動”や“子どもと楽しく触れ合える活動”を保護者は望んでいることがうかがえた。さらに、「夏休み期間の開催」や「子どもだけで何かをする時間」、「回数を増やしてほしい」との意見もあり、親自身の時間の確保や子ども同士の交流の場として、本活動を利用したい声も挙がっていた（Table. 8）。参加者のアンケート結果から見えてくる講座内容の傾向や参加者のニーズを踏まえて、計画を立案していくことが必要であると考ええる。

(2) 子ども対象アンケートの結果

平成28年度は、236名の参加者（保護者を除く）のうち79名が小学生以上のお子さんであった。小学生以上の参加者を対象に実施したアンケート結果を以下に示す。

① 活動参加の動機

活動参加の動機として、「おもしろそうだったから」が最も多く44名が回答していた。次いで、「おうちの人が申込みをしていたから〔16名〕」、「大学生に会いたかったから〔5名〕」、「友達の誘い〔3名〕」であった。より多くの小学生に参加してもらうためにも、今後も引き続き、小学生が主体的に参加できるような企画内容の

検討や参加しやすい日程を調整するなど配慮・工夫が必要である。

② 活動内容への「満足度」及び「今後の参加希望」

参加した子ども（小学生以上）の80%〔59名〕が「とても楽しかった」と回答し、次いで「まあまあ楽しかった」が15%〔11名〕、「少しつまらなかった」が2%〔2名〕であった。この結果より、アンケートに回答した子どものうち8割が本活動に参加して何らかの満足感を得ていたことがうかがえた。“また来たい”“楽しかった”“面白かった”という所感を得ており、子どもたちにとって、充実した時間となっていたことが示唆された。また、次回以降の参加希望についても、9割以上の子どもが「参加したい」と回答しており、この結果からも非常に高い満足感を得ていたことがうかがえた。

5. おわりに

本稿では、地域における子育て支援活動「平成28年度子どもミュージアム」での取り組みとその実績について報告した。子育て支援は、“子どもだけ”“親だけ”を対象にするのではなく、“親と子”の双方への支援が対象であるべきだと言われている⁴⁾。さらに近年、地域社会における相互交流は疎遠になり、本来、社会的な営みとして行われるべき「子育て」が、母親（保護者）の手に委ねられつつあり、近隣からの子育ての情報や援助が得られにくい社会へと変容してきていることも指摘されている⁵⁾。このような背景からも、本活動が“保護者-子ども”といった親子交流の場のみならず、保護者同士の交流や憩いの場、保育に関する情報交換・共有の場として更に機能できるよう、参加者のニーズや要望等を踏まえて、計画を立案していくことが必要であると考ええる。

実際に本活動に参加した保護者からは、「明るく楽しい笑顔で見守ってもらえて楽しく過ごせました」や「学生の皆さんが積極的に関わってくださるので、離れて見守るくらいで助かりました」、「親から離れず見ていることが多い子ですが、今日はとても楽しんで参加したので驚きました。学生さんの雰囲気よかったからかなと思います」といった声もあり、子どもと学生が遊んでいる姿や普段見る事ができない子どもの様子（一面）は、母親（保護者）

にとって、ほっとできる時間になったのではないだろうかと考える。このような声からも、今後は「子どもミュージアム」に参加するにあつたての目的・意図、さらには保護者にとって本活動がどのような時間として機能しているのか、その活動意義について追及していきたい。さらには、本活動に求められているプログラム内容や支援内容など、“子育て支援”に対する保護者のニーズや期待感についても検討していくことが必要であると考え。また、今後も子育て支援活動を継続していく中で、学生が親子と接し、実際に親子のふれあう様子を間近で観察したり、さらには、“親-子”との相互の関わりを通して、子育て支援の必要性や意義について学ぶことのできる実践の在り方を検討していくことが課題であると考え。

注

- 1) 佐野記念公園は、佐野常民の偉業を顕彰し、「博愛精神」を学んでいく佐野常民記念館（体験学習施設）と、日本近代科学技術の源流といわれる「佐賀藩海軍所跡地」の遺構を顕在化した歴史公園からなる〔詳細は、佐野恒民記念館ホームページ参照〕<http://www.saganet.ne.jp/tunetami/>
- 2) 「小城市まちなか市民交流プラザゆめプラット小城」大学サテライト教室では、西九州大学が所有する教育、研究、地域連携資源を活用し、「学びの場」、「地域づくりの場」、「地域住民の健康維持の場」を提供している〔詳細は西九州大学ホームページ参照〕
<http://www.nisikyuu.ac.jp/satellite/information/categorylist/c/144/>

引用・参考文献

- 1) 大城あゆみ・西村麻希・田中麻里、『西九州大学子ども学部における子育て支援活動－「子どもミュージアム」平成25年度の活動報告－』、西九州大学子ども学部紀要、第6号、111-121、2015
- 2) 山田みつ子・原子はるみ、『保育者養成校併設の子育て支援施設における学生の学び－つどいの広場の学生支援を通して－』、全国保育士養成協議会研究大会第54回研究大会研究発表論文

集、pp.177、2015

- 3) 西村麻希・西村侑香里・田中麻里、『地域における子育て支援活動「子どもミュージアム」に参加した学生の意識の変化について－学生アンケートの内容分析を通じた“実践的学び”の検証－』、西九州大学子ども学部紀要、第8号、1-13、2017
- 4) 椎山克己、『地域子育て支援拠事業「信愛つどいの広場」の現状と課題』、久留米信愛女学院短期大学研究紀要、第39号、45-50、2016
- 5) 福井逸子・小栗正裕・瀧川光治、『「子育て支援力」育成のための保育士養成教育に関する研究（1）－短期大学へのアンケート調査の分析を通して－』、北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要、第1号、135-150、2008